

2017年（平成29年） 7月7日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

6/22~6/28のNYMEX・WTIは、42.74~44.74ドルで、5営業日続伸した。

6月29日は、前日の米国原油減産・米ガソリン在庫減少報告を好感した買いや前週からの安値拾いの買いに支えられ、6営業日続伸した。8月限の終値は前日比0.19ドル高の44.93ドルだった。

週末30日は、月末・週末を控えたポジション調整やドル安・ユーロ高に伴う割安感による買いに加え、ペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数が756基（前週比2基減、24週振り減少）との発表による供給過剰感の後退で、7営業日続伸した。8月限の終値は前日比1.11ドル高の46.04ドルだった。

週明け3日は、週末の上昇傾向を受け継ぎ、8営業日続伸した。8月限の終値は前週末比1.03ドル高の47.07ドルと、6月6日以来1カ月振りの高値を付けた。

独立記念日の休日明け5日は、利益確定や為替市場のドル高進行による売りが台頭し、9営業日振りに大幅反落した。8月限の終値は前日比1.94ドル安の45.13ドルだった。

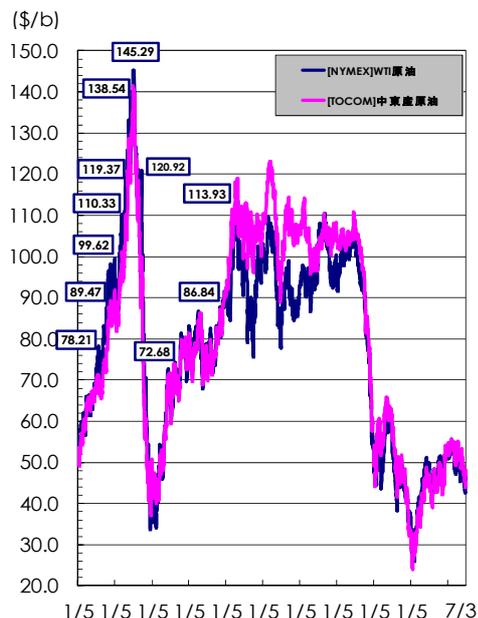
アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（8月渡し）は、前週43.50~45.30ドルで上昇傾向に推移した。6月29日は46.30ドル、30日は46.50ドル、7月3日は47.80ドル、4日は48.30ドル、5日は48.40ドルで推移した。

為替は、前週111.14~112.08円で円安方向に推移した。6月29日は112.35円、30日は112.00円、7月3日は112.22円、4日は113.21円、5日は113.08円で推移した。

主要元売会社の7月第2週に適用する卸価格は、ガソリン・中間留分ともに、0.5円から1.0円の値上げだった。原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、7月3日時点の小売価格は、ガソリンが0.3円値下がりの130.3円、軽油は0.2円値下がりの109.7円、灯油は0.1円値下がりの76.2円だった。ガソリン、軽油は4週連続の値下がり、灯油は11週連続の値下がりとなった。この週（7月第1週）の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は、ガソリンが0.5円の値下げと据え置きに、中間留分が0.5円と1.0円の値下げに分かれた。

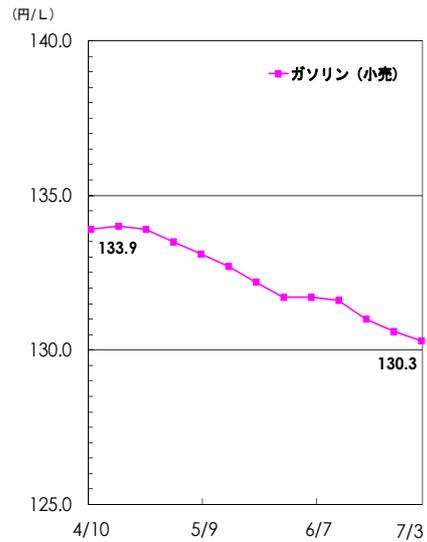
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/25 ~ 7/1	3,284 ▲151	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	83.9 ▲3.9	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	7/1	12,989 ▲894	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	7/3	48.10 ▲2.82	▲ 1.2
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	7/3	47.07 ▲3.69	▲ 0.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月上旬	52.25 ▼-1.04	▲ 6.97
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	36,733 ▼-1,205	▲ 5,847
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.77 ▲1.41	▼ -3.33
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/3	113.22 ▼-0.94	▼ -9.66



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/25 ~ 7/1	979 ▲ 23	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	916 ▼ -22	▼ -	
	輸出	"	92 ▲ 32	▲ -	
	在庫	7/1	1,821 ▼ -29	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/27 ~ 7/3	49.3 ▲ 0.6	▲ 6.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/27 ~ 7/3	48.0 ▲ 2.1	▲ 5.4
		(TOCOM/中部)	7/3	48.5 ▲ 1.6	▲ 6.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/3	130.3 ▼ -0.3	▲ 6.5	

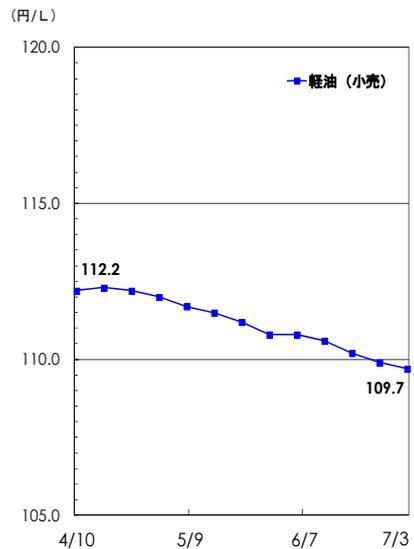
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

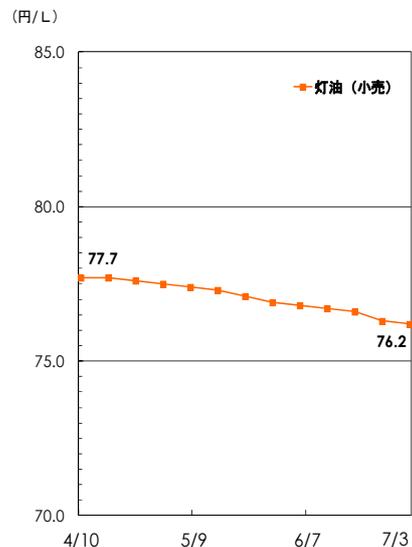
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/25 ~ 7/1	795 ▲ 18	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	605 ▼ -59	▼ -	
	輸出	"	147 ▲ 43	▲ -	
	在庫	7/1	1,505 ▲ 42	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/27 ~ 7/3	47.4 ▲ 0.6	▲ 5.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/27 ~ 7/3	48.0 ➡ 0.0	▲ 8.0
		(TOCOM/中部)	7/3	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/3	109.7 ▼ -0.2	▲ 6.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/25 ~ 7/1	167 ▲ 15	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	136 ▲ 24	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	7/1	1,552 ▲ 32	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/27 ~ 7/3	46.4 ▲ 0.8	▲ 6.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/27 ~ 7/3	45.8 ▲ 1.9	▲ 6.1
		(TOCOM/中部)	7/3	46.5 ▲ 2.7	▲ 6.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/3	76.2 ▼ -0.1	▲ 12.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

独立記念日休明けの7月5日のNYMEX市場WTI原油は、前日までの8営業日連続の続伸の反動で、利益確定やポジション調整の売りが台頭し、9営業日振りに大幅反落した。また、外為市場におけるドル高・ユーロ安の進行に伴う原油先物の割高感や石油輸出国機構(OPEC)の6月原油生産量が前月比で増加したとの報道も、売りを加速させた。発表が一日遅れる翌日の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報が注目される。8月限の終値は前日比1.94ドル安の45.13ドル、9月限の終値は前日比1.95ドル安の45.34ドルだった。

EIAによると、7月3日時点のガソリンの小売価格は前週比2.8セント値下がりの1ガロン2.260ドル(67.5円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.7セント値上がりの2.472ドル(73.8円/ℓ)。ガソリンは4週連続の値下がり、ディーゼルは5週振りの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、6月25日～7月1日に休止したトッパー能力は39.0万バレル/日で、前週に対して15.9万バレル/日の減少(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は328.4万klと、前週に比べ15.1万kl増加。前年に対しては11.7万klの減少。トッパー稼働率は83.9%と前週に対して3.9ポイントの増加、前年に対しては3.8ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて全油種で増産となった。ガソリン/2.4%増、ジェット/38.2%増、灯油/9.8%増、軽油/2.3%増、A重油/1.2%増、C重油/8.8%増。今週のC重油の輸入は7.1万kl(前週比0.4万kl増)。軽油の輸出は14.7万kl(前週比4.3万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比では灯油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では、ジェット、灯油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は91.6万kl(対前週2.4%減)と2週連続で前週比、前年比で減少となり、5週連続で100万klを下回った。

ジェット9.7万kl(対前週40.0%減)、灯油13.6万kl(対前週21.0%増)、軽油60.5万kl(対前週8.8%減)、A重油16.6万kl(対前週19.1%減)、C重油25.1万kl

(対前週25.2%増)。

(単位:千KL)

	今週 (6/25 ~ 7/1)	前週 (6/18 ~ 6/24)	前週比
ガソリン	916	938	▼ -22 (-2%)
ジェット燃料	97	162	▼ -65 (-40%)
灯油	136	112	▲ 24 (21%)
軽油	605	664	▼ -59 (-9%)
A重油	166	205	▼ -39 (-19%)
C重油	251	200	▲ 51 (26%)
合計	2,171	2,281	▼ -110 (-5%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月1日時点の在庫は、ガソリン、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、ガソリン、ジェット、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは182.1万kl、前週差2.9万kl減。前年に対しては12.8万kl多い。

灯油は155.2万kl、前週差3.2万kl増。前年に対しては35.9万kl少ない。

軽油は150.5万kl、前週差4.2万kl増。前年に対しては3.7万kl少ない。

A重油は78.2万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては3.5万kl少ない。

C重油は209.7万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては6.3万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (7/1)	前週 (6/24)	前週比
ガソリン	1,821	1,850	▼ -29 (-2%)
ジェット燃料	1,110	1,095	▲ 15 (1%)
灯油	1,552	1,520	▲ 32 (2%)
軽油	1,505	1,463	▲ 42 (3%)
A重油	782	774	▲ 8 (1%)
C重油	2,097	2,119	▼ -22 (-1%)
合計	8,867	8,821	▲ 46 (0.5%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月27日から7月3日までの原油コストは、原油価格は値上がりし、為替レートは円安でこれを相殺したが、原油コストは値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン102～103円台でやや強含み、軽油46～47円台で強含み、灯油46～47円台で強含みで推移した。

海上スポット価格は、ガソリン103～104円台で連日動き、軽油47～48円台でやや弱含み、灯油44～46円台で強含みで推移した。

先物価格は、ガソリン100～102円台で強含み、軽油48

円台で横ばい、灯油44～46円台で強含みで推移した。元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、1.0円の値上げから据え置きに分かれた。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは値上がりし、製品スポット市況は、海上の軽油が値下がりし、海上のガソリンと先物の軽油が横ばい、それ以外は値上がりし、全体として値上がりした。週間のガソリン販売量は、2週連続で前年割れ、前週割れとなり、5週連続で100万kl割れとなった。

7月第2週(7月6日～7月12日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(6月27日～7月3日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.6円の値上がり、軽油は0.6円の値上がり、灯油は0.8円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが横ばい、軽油は0.6円の値下がり、灯油は2.1円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが2.1円の値上がり、軽油が横ばい、灯油は1.9円の値下がりだった。原油価格は値上がりし、為替は円安で、原油コストは値上がりとなった。

7月第2週の大手元売の卸価格は、0.5円から1.0円の値上げだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (6/27 ~ 7/3)	前週 (6/20 ~ 6/26)	前週比
	レギュラー	49.3	48.7
灯油	46.4	45.6	▲ 0.8
軽油	47.4	46.8	▲ 0.6

[期近物/終値] [平均]	今週 (6/27 ~ 7/3)	前週 (6/20 ~ 6/26)	前週比
	レギュラー	48.0	45.9
灯油	45.8	43.9	▲ 1.9
軽油	48.0	48.0	▶ 0.0

※上記価格は税抜き価格

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.6	▲ 2.1	▲ 1.4
灯油	▲ 0.8	▲ 1.9	▲ 1.3
軽油	▲ 0.6	▶ 0.0	▲ 0.3
A重油	▲ 0.5		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

7月3日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円値下りの130.3円、軽油も前週比0.2円値下りの109.7円、灯油は前週比0.1円値下りの76.2円だった。ガソリン、軽油は4週連続の値下がり、灯油は11週連続の値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは8都県、横ばいは5府県、値下がり34道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、徳島県の124.5円(前週比0.6円高)、次が滋賀県の125.5円(同0.1円安)だった。最高値は沖縄県の140.0円(同0.1円高)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比0.6円高の長崎県(138.8円)・福島県(130.6円)・徳島県(124.5円)、最も値下がりした県は同1.0

円安の愛知県(127.6円)、横ばいが高知県・島根県・佐賀県・京都府・鳥取県だった。

原油コストは値下がりし、元売りの卸価格も1.0円の値下げから据え置きに分かれ、4週連続でガソリン小売価格は値下がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートはやや円安であったが、原油コストは値上がりした。元売会社の卸価格は、1.0円の値上げから据え置きに分かれた。次週(7月10日)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが見られる。

[週動向]	今週 (7/3)	前週 (6/26)	前週比	直近高値	
	レギュラー	130.3	130.6	▼ -0.3	08/8/4
灯油	76.2	76.3	▼ -0.1	08/8/11	132.1
軽油	109.7	109.9	▼ -0.2	08/8/4	167.4

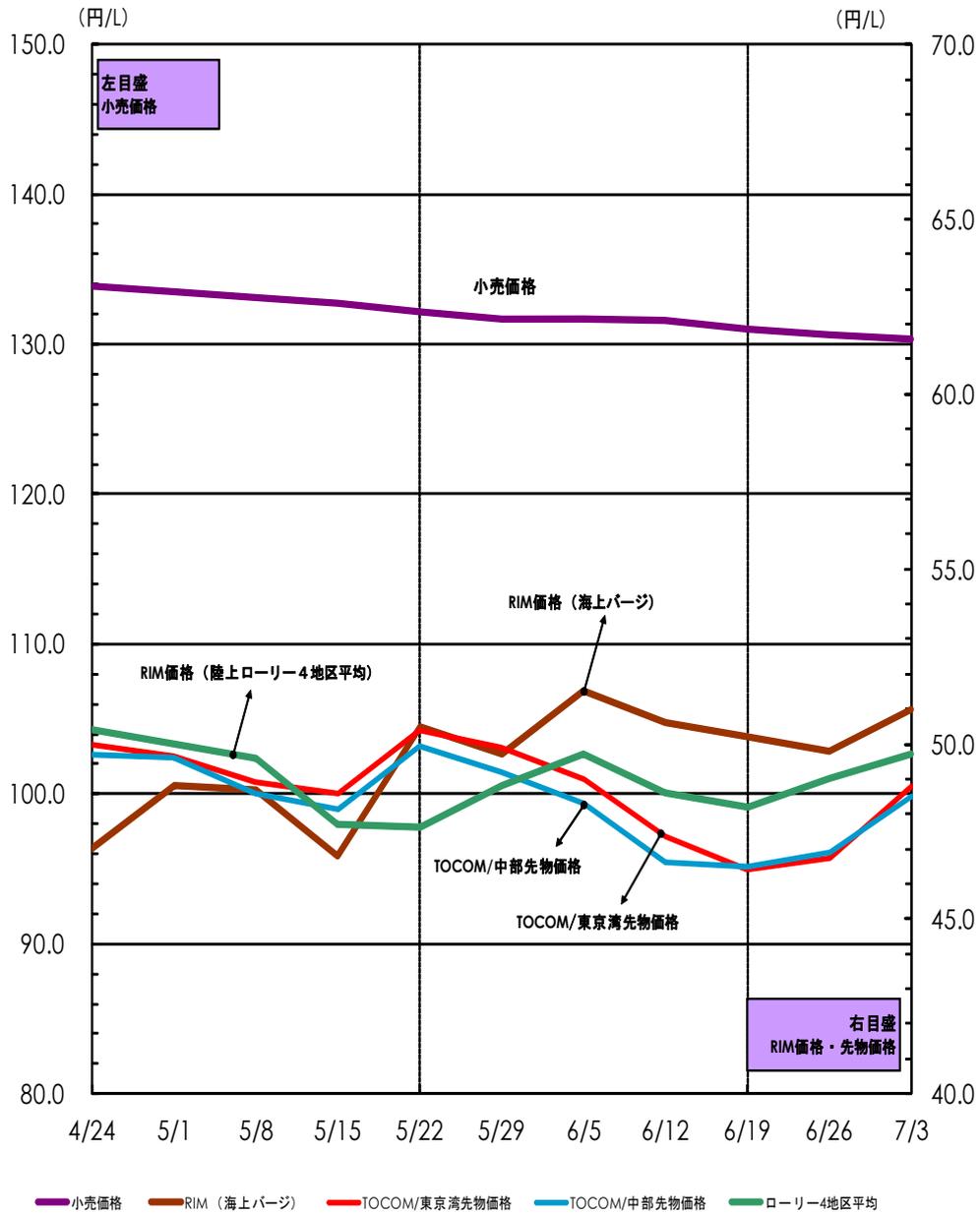
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2017/4/24 ~ 2017/7/3)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2017第14号)の公表は、7/14(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。